

2024年度
全国学生調査（第4回施行実施）

松本大学松商短期大学部
集計結果

内部質保証室

1.趣旨目的

「全国学生調査」は、学修者本位の教育への転換を目指す取組の一環として、学修の主体である学生目線からの大学教育や学びの実態把握を通じて、以下①～④への活用を目的としている。

- ①各大学が自大学の学生の実態や意識や他大学との比較分析を踏まえた教育改善に活用すること
- ②大学進学希望者やその保護者あるいは地域社会、産業界、海外の留学関係者等から、各大学における学生の学修成果や大学全体の 教育成果にこそ関心を持ってもらい、大学に対する理解を深めてもらうこと
- ③国が今後の政策立案に際しての基礎資料として活用すること
- ④学生一人一人が「何を学び、身に付けることができたのか」を振り返ることで今後の学修や大学生活をより充実したものにすることや、卒業後の社会における自らの姿を考える上での一つの契機とすること

2.調査概要

- 【調査対象】 参加意向のあった短期大学に在籍する学科の最終学年生（松商短期大学部は2年生）
- 【調査方法】 ①：文部科学省が実施するインターネット（W E B）調査（文部科学省が指定するU R L に学生が直接回答）
②：参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）
※松商短期大学部は調査方法②で実施
- 【調査期間】 調査方法①2024/10/28～2025/3/7
松商短大は調査方法②2025/1/14～2/18

3.回答者数・回答率

区分	対象学生数	回答者数	回答率
商	87	75	86.2%
経情	93	71	76.3%
短大_分野別【社会】	1,003	726	72.4%
短大_私立_100-199人	3,653	2,664	72.9%

4.設問

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

- Q4：理解がしやすいように教え方が工夫されていた。
- Q5：予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。
- Q6：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。
- Q7：グループワークやディスカッションの機会がある。
- Q8：質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。
- Q9：ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

- Q10：インターンシップ（5日間以上）
- Q11：海外留学・海外研修（短期も含む）
- Q12：主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

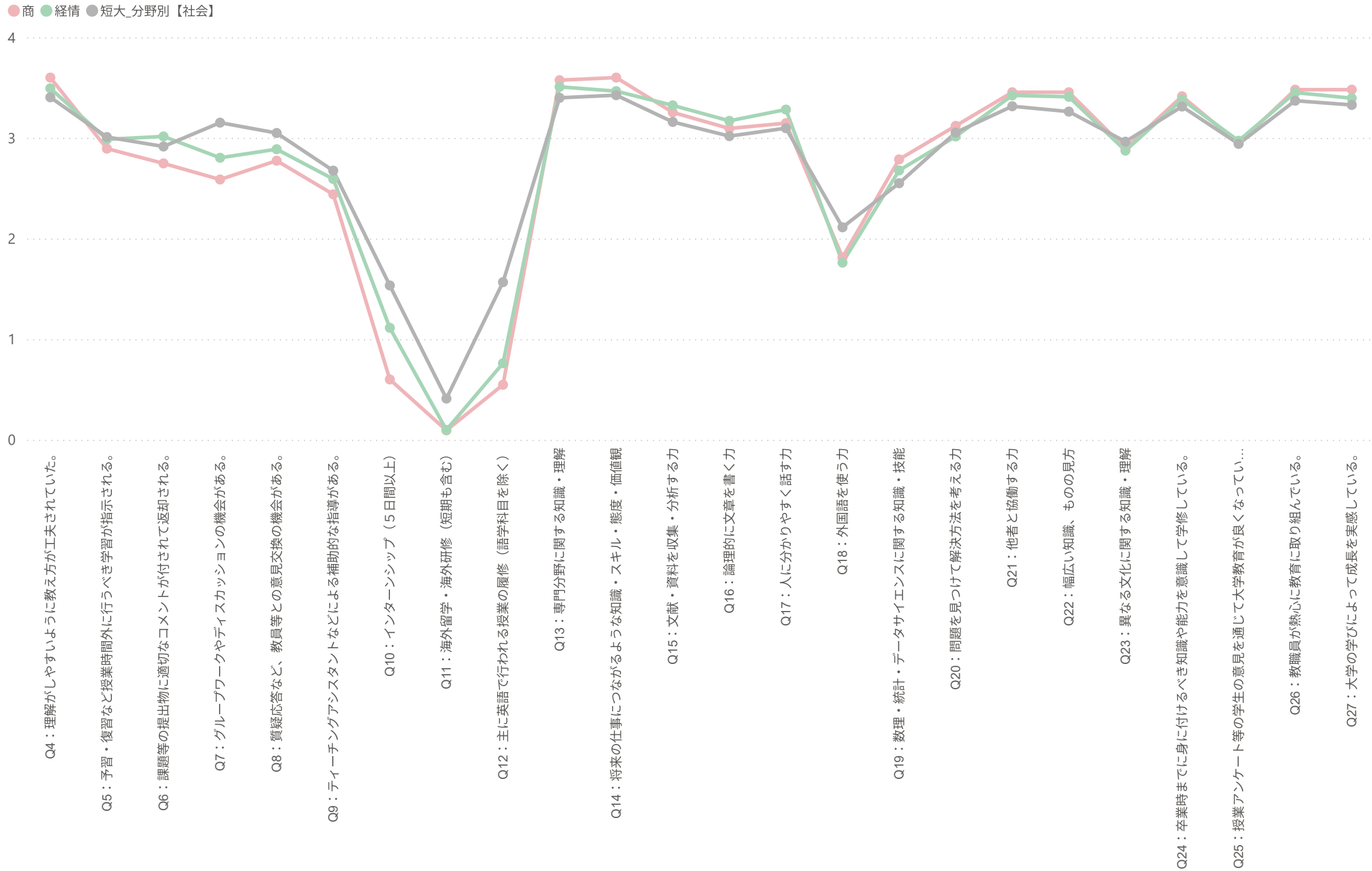
問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

- Q13：専門分野に関する知識・理解
- Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
- Q15：文献・資料を収集・分析する力
- Q16：論理的に文章を書く力
- Q17：人に分かりやすく話す力
- Q18：外国語を使う力
- Q19：数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
- Q20：問題を見つけて解決方法を考える力
- Q21：他者と協働する力
- Q22：幅広い知識、ものの見方
- Q23：異なる文化に関する知識・理解

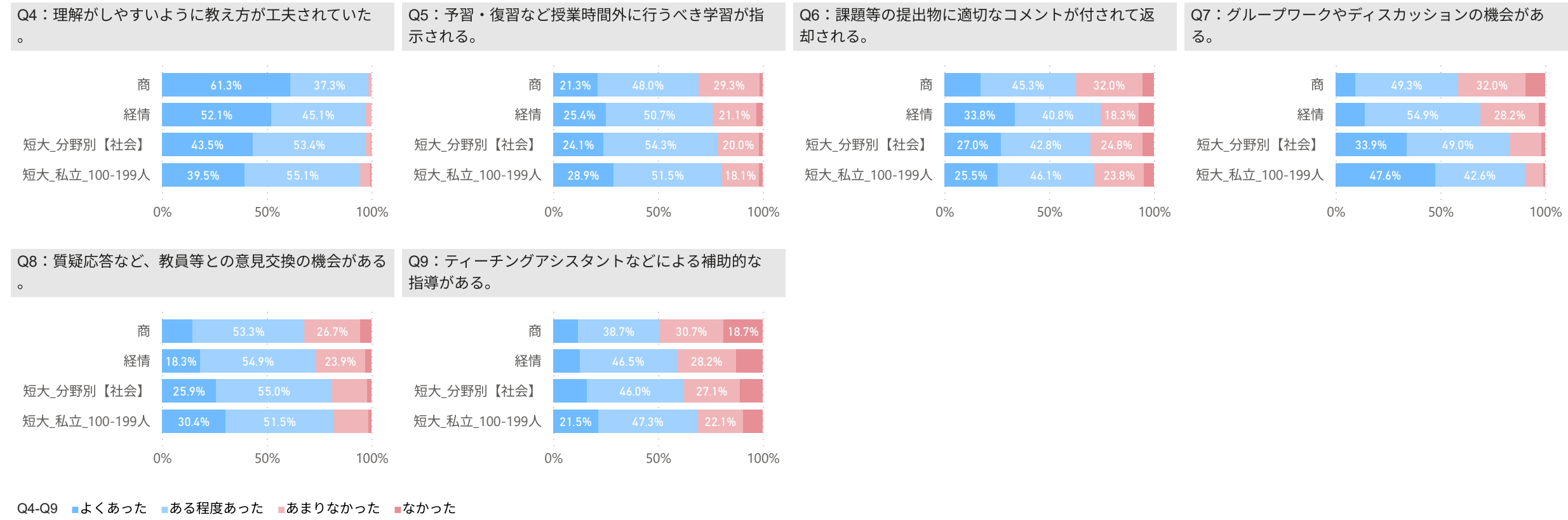
問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

- Q24：卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
- Q25：授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
- Q26：教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
- Q27：大学の学びによって成長を実感している。
- Q28：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）
- Q29：卒業論文・卒業研究・卒業制作（第2学年を除く）
- Q30：予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）
- Q31：授業と直接関係しない自主的な学習
- Q32：部活動/サークル活動
- Q33：アルバイト／定職

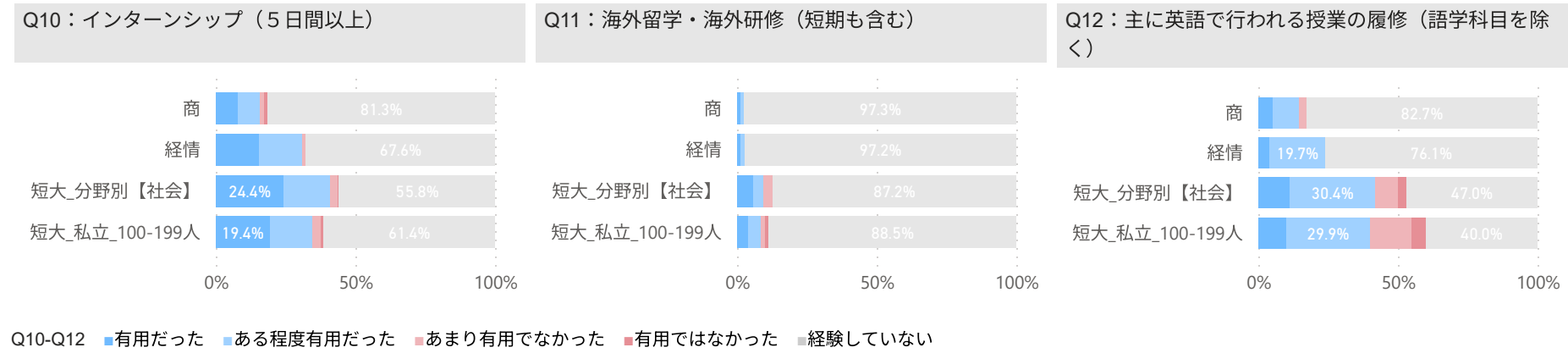
全国平均との比較【松商短期大学部】



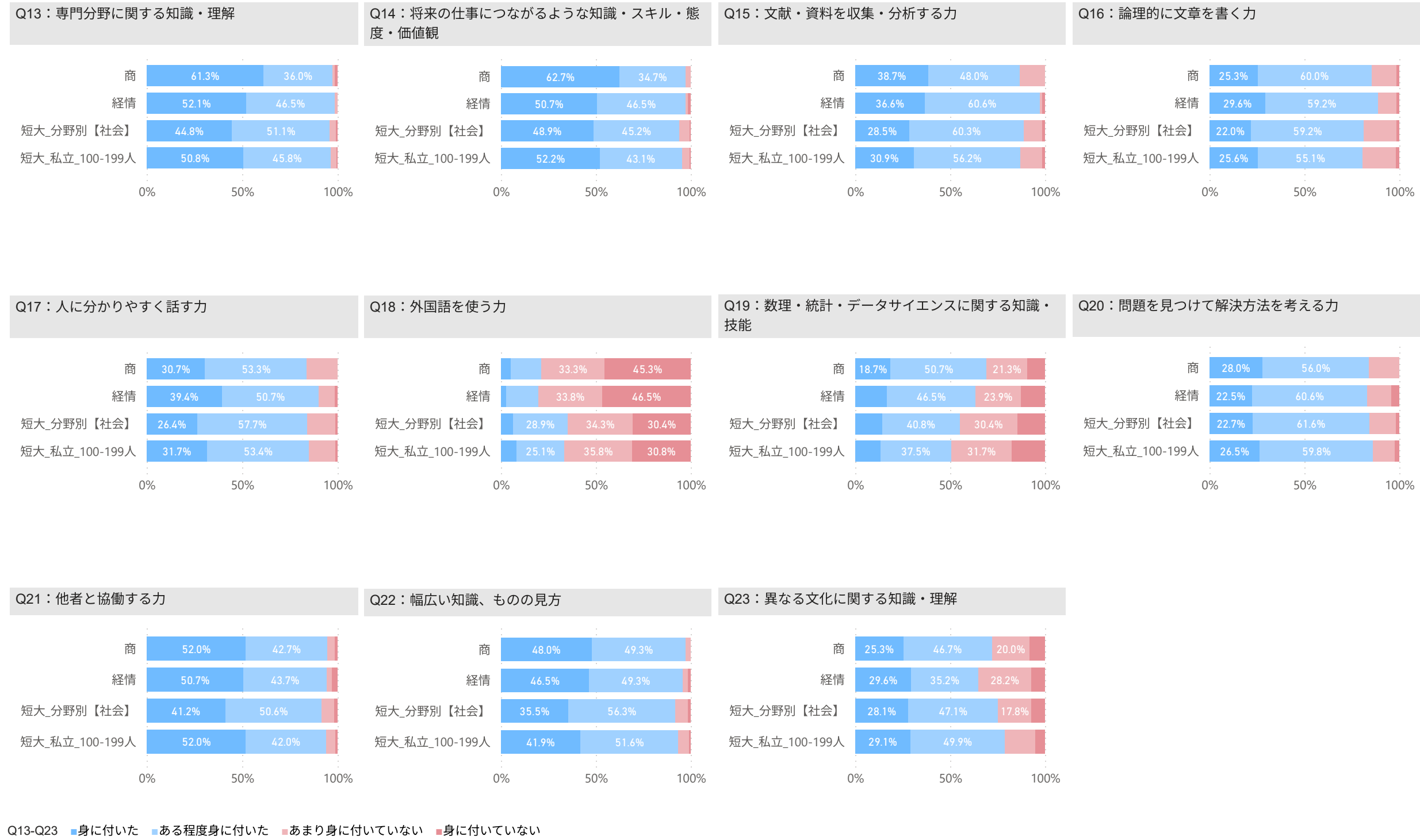
問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。



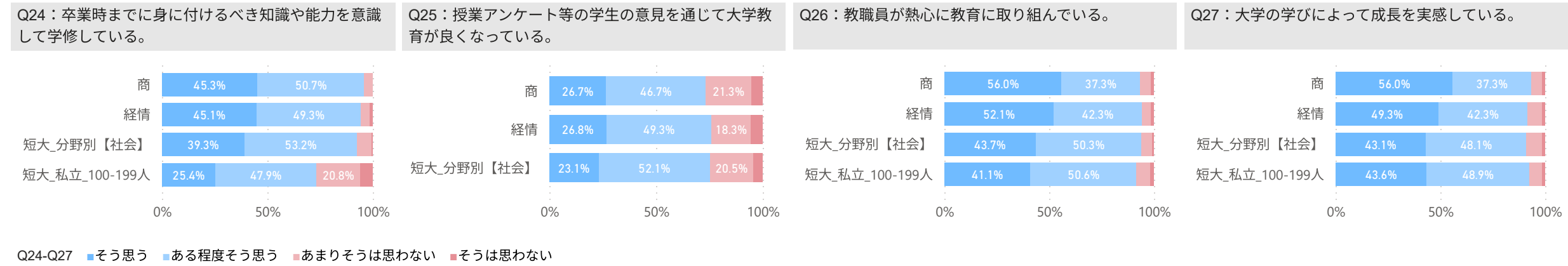
問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。



問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。



問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。



問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

